

言驚鳴沸騰一丈餘許其氣熾熱不可向昵緣邊草木悉皆枯萎因曰愠湯井俗語曰玖倍理湯井と云へる井もあり箋釋に此湯井古屬石垣莊鐵輪村其山多生硫黃土脈甚熱虛々有温湯所謂湯也久倍理者燒之俗言猶言火爾久倍留也と云へり又云此水之源出郡西柏野之盤中指南下流其色如酒味少酸焉用療痲癬謂太氣と云る水もあり箋釋に酒水今呼曰柏野堂尻川療痲癬者案郡西與速見郡接壤故受鶴見硫礬氣脈伏行地中發之玄かれば此地より出于此故然已と云へり博物志に凡水源有石硫黃其泉則温とも見ゆ云なれば謂ゆる地脈の事を云なるべし

玖倍理温泉

〔豊後國風土記 大分郡〕玖倍理湯井在郡西此湯井在郡西河直山東岸口徑丈餘湯色黑泥土常不流人竊到井邊發聲大言驚鳴湧騰二丈餘許其氣熾熱不可向昵範邊艸木悉皆枯萎因曰愠湯井俗語曰玖倍理湯井

〔塵袋二儀〕一夏ノ氷ハ宜旨ナケレバコホラズト云フ事如何略○中

豊後國速見郡温泉アマタアリ其中ニ一所ニ四ノ湯アリ一ヲバ珠灘湯ト云フ一ヲバ等持湯ト云フ一ヲバ寶賦ノ湯ト云フ一ヲバ大湯ト云フ

由布山温泉

〔和漢三才圖會八十湯嶽 在府中西有温泉俗云由布山而每流出皆湯也

肥前國柄崎温泉

〔筑紫紀行五〕廿九日筑前の久喜宮を出てより此所迄平道にて甚行よかりしに是よりは又山の手にかゝり初ぬ二十丁計行ば川原村人家二十軒ばかりあり十丁餘行ば柄崎宿北方より是迄人家四百軒計佐賀の家臣衆の領地なり此所に濕瘡疥瘡などによしといふ温泉あり遠近の人湯治に來り集るさるによりて宿屋茶屋も多し

嬉野温泉

〔筑紫紀行五〕廿九日是より山坂を十餘丁登れば三坂峠峠より二十丁許り下れば鹽田越と柄崎道との追分あり次に下宿人三丁許に立ちつゝきたる皆農家にて茶屋もなし十丁許行ば嬉野